

3 小学校・中学校

小・中学校 国語

◇今年度の重点

- (1) ICTを効果的に活用した授業の実践
- (2) 言語活動を通して指導事項を指導する単元展開
- (3) 系統性を明らかにした指導と評価の計画の作成・活用・検証

◇現状と課題

- ・主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善
- ・3観点による評価についての理解と実践
- ・学習の系統性を明確にした指導計画の作成と指導

(2) 言語活動を通して指導事項を指導する単元展開

- ・どのような言語能力を身に付けさせるかを明確にして指導に当たる。
- ・主体的・対話的で深い学びの視点から言語活動を充実させ、児童生徒の学びの更なる質の向上を図る。その際には、児童生徒が自ら学び、課題を解決していくための学習過程（「粘り強い取組を行う姿」や「自らの学習を調整する姿」が見られる学習過程）を明確にし、指導する。
- ・3観点による評価の仕方を正しく理解し、学習評価を適切に行えるようにする。

(3) 系統性を明らかにした指導と評価の計画の作成・活用・検証

- ・学習指導要領の目標を基に、各学年で指導する指導事項を具体化する。
- ・学習の系統性を明確にした指導計画を作成し、見通しをもって日々の指導に当たる。中学校においては、小学校での学習内容を踏まえ、それらへの積み上げを図る。
- ・指導計画の活用については、そこでの評価結果や各種調査結果の分析を踏まえ、修正や、重点化・焦点化・系統性に係る検証を加えるなどする。
- ・国語科が中心的役割を担いながら他教科等と連携して言語能力の向上を図る。

小・中学校 社会

◇今年度の重点

- (1) ICTを効果的に活用した授業の実践
- (2) 地域や学校、児童生徒の実態を生かした社会科学学習を展開するための指導と評価の計画の作成・活用と改善・充実
- (3) 人間尊重の精神と国際社会に生きる日本人としての自覚をもつ児童生徒の育成

◇現状と課題

- ・学習指導要領に基づく理解と適切な教育課程の編成・実施
- ・「指導と評価の一体化」のための適切な指導と評価の計画の作成・活用

(2) 地域や学校、児童生徒の実態を生かした社会科学学習を展開するための指導と評価の計画の作成・活用と改善・充実

- ・単元など内容や時間のまとまりを見通して学習課題を設定し、追究したり解決したりする活動を適切に指導計画に位置付け、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実し、主体的・対話的で深い学びの実現に努める。
- ・内容や時間のまとまりを見通した単元構成を考え、評価規準や評価方法を明確にした計画的な評価から資質・能力の育成や指導の改善につなげるなど指導と評価の一体化を図る。
- ・博学連携や地域素材（人材、博物館などの公共施設を含む）の教材化（学習内容を充実させるため）と効果的な活用を図る。

(3) 人間尊重の精神と国際社会に生きる日本人としての自覚をもつ児童生徒の育成

- 平和で民主的な国家及び社会の形成者として自覚をもち、自他の人格を互いに尊重し合い、社会的な義務や責任を果たそうとする資質や能力の基礎を育成する。
- ・同和問題や拉致問題などの人権問題、消費者教育や租税教育など主権者教育の充実
 - ・竹島、尖閣諸島、北方領土など、我が国の領土に関する学習の充実
 - ・受け継がれてきた伝統や文化、宗教に関する学習の実施
 - ・学習指導要領に基づき、我が国及び諸外国の国旗・国歌の意義を理解し、相互に尊重する態度の育成

小学校 算数・中学校 数学

◇今年度の重点

- (1) ICTを効果的に活用した授業の実践
- (2) 児童生徒の実態に即した指導と評価の一体化
- (3) 数学的活動の充実と算数・数学を学ぶことの楽しさや意義を実感できる学習展開の工夫

◇現状と課題

- ・ICTの活用が進む一方で、活用場面を適切に選択し、効果的に活用することが必要
- ・学習指導要領に基づく学習評価について、一層の理解が必要
- ・児童生徒が自ら数学的に問題発見をしたり、解決をしたりする場を増やすことが必要

(2) 児童生徒の実態に即した指導と評価の一体化

- ・児童生徒一人一人の学習の成立を促すための評価という視点を一層重視し、教師が自らの指導のねらいに応じて授業での児童生徒の学びを振り返り、学習や指導の改善に生かしていく。
- ・児童生徒の学習状況を記録に残す場面を精選し、かつ適切に評価するため、評価の計画を工夫する。
- ・県及び全国学力・学習状況調査を活用するとともに、調査結果から児童生徒の学習状況を把握し、学習指導の改善・充実を図る。

(3) 数学的活動の充実と算数・数学を学ぶことの楽しさや意義を実感できる学習展開の工夫

- ・算数・数学の問題発見・解決の過程を重視するとともに、それぞれの過程や結果を振り返り、評価・改善することができるようにする。
- ・児童生徒が、問題の解決に向けて見通しをもつ、数学的な表現を用いて筋道を立てて説明する、よりよい考えに高めたり事柄の本質を明らかにしたりする、それらの過程を振り返るなど「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させ、主体的・対話的で深い学びを実現する。

小・中学校 理科

◇今年度の重点

- (1) ICTを効果的に活用した授業の実践
- (2) 主体的・対話的で深い学びの実現と、授業改善のための指導と評価の一体化
- (3) 学習環境の整備・充実と事故防止

◇現状と課題

- ・効果的なICT活用事例の蓄積不足。
- ・ICTを観察、実験の代替としてではなく、理科の学習の一層の充実を図るための有用な道具として活用する必要性。
- ・観点別評価について、趣旨の理解と具体的方法の浸透不足。
- ・児童生徒の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の必要性。

(2) 主体的・対話的で深い学びの実現と、授業改善のための指導と評価の一体化

- ・理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどの問題解決の活動（探究の過程）を通して、児童生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を図る。
- ・児童生徒の学習改善及び教師の指導改善につながる「指導と評価の一体化」の実現を図るため、観点別の評価規準を明確にする。また、評価の場面や方法の工夫に努める。
- ・日常生活や社会との関連を重視した体験的な学習活動を通して、児童生徒が理科を学ぶことの意義や有用性を実感できるよう、指導の工夫改善に努める。

(3) 学習環境の整備・充実と事故防止

- ・新たに整備したり、老朽化等により更新したりする必要がある器具等を把握し、計画的に理科室や指導に必要な教材、器具等の整備・充実を図る。
- ・観察、実験等を行うに当たっては、クラス単位で実施することを想定した事前調査や予備実験を行うなどの安全管理を徹底する。
- ・児童生徒に観察、実験等の基本的な技能や態度を身に付けさせるとともに、安全対策にも目を向けさせることで事故防止に努める。
- ・万一の事故等に備えた校内体制を全教職員で共有しておく。

小学校 生活

◇今年度の重点

- (1) ICTを効果的に活用した授業の実践
- (2) 学校や地域の特色、児童の実態を生かした年間指導計画の作成・改善
- (3) 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた指導と評価の工夫

◇現状と課題

- ・発達段階に応じた思考や認識の育成
- ・幼児期の教育とのつながり
- ・中学年の各教科等へのつながり

(2) 学校や地域の特色、児童の実態を生かした年間指導計画の作成・改善

- ・生活科の特質に応じて、効果的な学習が展開できるように、学校や地域の特色、児童の実態等に応じて、2年間を見通した年間指導計画や、1年間の全ての単元を配列し、それを俯瞰できる単元配列表などを作成し、活用を図る。その際、各教科等の関連を図ったり、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえて教育課程をつないだりすることも配慮しながら作成する。
- ・生活科マップや人材マップ、生活科暦などを絶えず見直し、柔軟に活用できるようにしておいたり、生活科を中心とした合科的・関連的な指導や弾力的な時間割の設定などに配慮したスタートカリキュラムに学校全体で取り組めるようにしたりする。

(3) 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた指導と評価の工夫

- ・試行錯誤や繰り返す活動を設定したり、伝え合い交流する場を工夫したり、振り返り表現する機会を設けたりして一人一人の気づきを質的に高める。
- ・活動や体験の中で感じたり考えたりしている児童の姿を丁寧に見取り、働きかけ、活動の充実につなげる。
- ・評価を行うに当たり、「量的な面」だけでなく、「質的な面」から捉えるように行動観察や作品・発言分析等を行ったり、児童自身による自己評価や児童相互の評価、ゲストティーチャーや家庭等からの情報など、様々な立場からの評価資料を収集したりすることで、児童の姿を多面的に評価する。

小・中学校 音楽

◇今年度の重点

- (1) ICTを効果的に活用した授業の実践
- (2) 「指導と評価の一体化」の実現
- (3) 学年間・校種間の連続性や系統性を踏まえた指導と評価の計画の作成と活用

◇現状と課題

- ・「何を身に付けさせたいのか」を明確にして、音や音楽をとおして思考・判断させる場面を位置付ける授業の増加。
- ・「指導と評価の一体化」への一層の理解が必要。

(2) 「指導と評価の一体化」の実現

- ・題材構想の段階から音楽科において育成を目指す資質・能力と評価を一体的に考えて構想する。
- ・音楽科を学ぶ本質的な中核をなす「音楽的な見方・考え方」を働かせる場面を設定するとともに、児童生徒が楽しく音楽活動と関わり、直接的な音楽体験を通して主体的に学習を進めることができるよう指導のねらいや手立てを明確にし、音や音楽によるコミュニケーションを図りながら、協働して音楽活動する楽しさを感じ取らせるよう指導を工夫する。

- ・「児童生徒の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素」を適切に選択・設定し、学習内容の充実を図る。

(3) 学年間・校種間の連続性や系統性を踏まえた指導と評価の計画の作成と活用

- ・児童生徒や学校、地域の実態等を考慮し適切な指導と評価の計画を作成する。
- ・年間指導計画については、題材同士の関連性や発展性も考えて各題材の配列を工夫する。
- ・音楽科で育成を目指す資質・能力が学習の継続・発展によって高められるという音楽の学習の特性を考慮し、学年間・校種間の連続性や系統性、他の教育活動との関連を図り、指導の効果を高めるようにする。

小学校 図画工作・中学校 美術

◇今年度の重点

- (1) ICTを効果的に活用した授業の実践
- (2) 生活や社会の中の形や色など（美術や美術文化）と豊かに関わる資質・能力の育成
- (3) 「指導と評価の一体化」の実現

◇現状と課題

- ・表現や鑑賞の活動の中で、児童生徒が造形的な視点について理解していない場合がみられる。
- ・表現したり鑑賞したりする資質・能力が相互に関連していない場合がみられる。

(2) 生活や社会の中の形や色など（美術や美術文化）と豊かに関わる資質・能力の育成

- ・育成する資質・能力と学習内容との関係を明確にするとともに、指導事項の定着状況を見届ける。
- ・主体的・対話的で深い学びの実現を図るため、造形的な見方・考え方を働かせ、表現及び鑑賞に関する資質・能力を相互に関連させた学習活動を工夫する。
- ・造形的な見方・考え方を働かせるために、表現及び鑑賞のそれぞれの活動において、造形的な視点を基に、どのような考え方で思考するかということを明確にしていく。
- ・〔共通事項〕に示す事項を視点に、言葉で整理したり、対象の見方や感じ方を広げたり、深めたりするなどの言語活動を充実する。

(3) 「指導と評価の一体化」の実現

- ・学習指導要領解説等を踏まえた「内容のまとまりごとの評価規準」を作成し、指導と評価の計画を立てた上で、授業ごとに学習評価を行う。
- ・学習のねらいを明確にするとともに、振り返りの機会を設定し、指導と評価の一体化に努める。
- ・作品を評価の資料として活用する場合は、作品から児童生徒の学習状況を見取る。

小学校 家庭・中学校 技術・家庭

◇今年度の重点

- (1) ICTを効果的に活用した授業の実践
- (2) 生活や社会の中から問題を見いだして課題を設定し、解決する力の育成
- (3) 「指導と評価の一体化」の実現

◇現状と課題

- ・児童生徒自らが問題を見だし、課題を設定する授業展開が重要である。
- ・児童生徒の学習改善や教師の指導改善につなげる学習評価の充実を図る。

(2) 生活や社会の中から問題を見いだして課題を設定し、解決する力の育成

- ・生活や社会における問題の解決に向けて、学んだ知識及び技能を活用して解決方法を考えたり、自分なりの新しい解決方法を創造したりするなど、学んだことを実際の生活や社会の中で生かすことができる力を育む題材を設定する。
- ・家庭分野では、既習の知識及び技能や生活経験を基に家族・家庭や地域における生活を見つめることを通して、問題を見だし、解決すべき課題を設定する力の育成に向けて、指導計画の工夫を図る。
- ・技術分野では、技術の見方・考え方に気付き、生活や社会の中から問題を見いだして課題を設定し、気付いた技術の見方・考え方を踏まえた上で解決策を構想し、製作図等に表現し、試作等を通じて具体化し、実践を評価・改善することができる題材を設定する。

(3) 「指導と評価の一体化」の実現

- ・児童生徒や地域の実態を踏まえた教育課程を編成し、指導計画を作成する。
- ・小・中・高等学校における内容の系統性や学年間を見通した指導計画と評価計画を作成する。
- ・各学校において、児童生徒や地域の実態、学習指導要領の趣旨を踏まえて「内容のまとまりごとの評価規準」を作成する。
- ・実践した結果をもとに、児童生徒の学習改善や教師の指導改善につながるよう、指導方法や学習評価の改善を図る。

小学校 体育・中学校 保健体育

◇本年度の重点

- (1) ICTを効果的に活用した授業の実践
- (2) 資質・能力の三つの柱の育成がバランスよく実現できる学習過程を工夫し、運動の楽しさや喜びを味わえる授業の実践
- (3) 健康・安全について、小学校では、基礎的・基本的な内容を実践的に理解できるようにし、中学校では、科学的に理解できるようにする保健教育の実践

◇現状と課題

- ・運動の特性や魅力を十分に味わうことのできる授業実践
- ・指導内容の明確化を図るとともに、発達の段階を踏まえた指導と評価の計画の作成
- ・運動領域（体育分野）と保健領域（保健分野）を関連させた指導の充実
- ・体育的活動時の事故防止

(2) 資質・能力の三つの柱の育成がバランスよく実現できる学習過程を工夫し、運動の楽しさや喜びを味わえる授業の実践

- ・学校や地域の実態及び児童生徒の心身の発達の段階や特性、各学校種間の関連を十分考慮して、2学年間や小学校6年間、中学校3年間の見通しを立てて指導計画を作成し、日常的な活用及び見直しを図る。
- ・指導内容の明確化を図り、それらが確実に身に付くような指導方法を工夫する。
- ・指導内容の定着を確実に評価する方法と、評価を次の指導に生かす方法を工夫し、指導と評価の一体化を図る。
- ・体育と保健を一層関連させて指導する。

(3) 健康・安全について、小学校では基礎的・基本的な内容を実践的に理解できるようにし、中学校では科学的に理解できるようにする保健教育の実践

- ・小学校では健康な生活を送る資質や能力の基礎を培う観点、中学校では生涯を通じて心身の健康を保持増進するための資質・能力を育成する観点を踏まえ、系統性のある指導ができるように、指導内容を明確にする。
- ・健康に関心をもてるようにし、健康に関する課題を解決する学習活動を取り入れるなどの指導方法の工夫改善に努める。

小学校 外国語・外国語活動

◇今年度の重点

- (1) ICTを効果的に活用した授業の実践
- (2) 児童がコミュニケーションを図る楽しさを体験できる言語活動の充実
- (3) 指導計画の作成と指導改善のための指導と評価サイクルの確立

◇現状と課題

- ・授業におけるICTの活用
- ・言語活動の充実
- ・個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実
- ・小中連携の推進
- ・学習評価の適切な理解と実施

(2) 児童がコミュニケーションを図る楽しさを体験できる言語活動の充実

- ・実際に外国語を聞いたり、話したりして、（高学年においては併せて、読んだり、書いたりして、）相手意識をもってコミュニケーションを図る楽しさを体験できる活動を充実させる。
- ・児童の生活や他教科等や学校や地域行事と関連させた、コミュニケーションの目的や場面、状況等を明確に設定した言語活動を行う。
- ・児童が学んだ内容が実際の生活において活用できることを実感できるようにする。
- ・単元の初めに目標を児童と共有し、児童が学習の見通しを持ち、中間指導により活動を振り返りながら、繰り返し言語活動に取り組み、言語活動を通して資質・能力の育成を図る。
- ・小学校と中学校の指導の継続性を図るために、小中間の情報交換や交流などを定期的に行えるよう小中連携を図る。

(3) 指導計画の作成と指導改善のための指導・評価サイクルの確立

- ・児童の実態や学習段階を考慮し、学年ごとの目標を適切に設定する。
- ・3観点・5領域による学習評価の方法を正しく理解し、適切に評価を行えるようにする。
- ・年間・各学期・各単元を見通し、十分に指導をした上で、適切な場面・方法で評価を行えるよう、評価の一体化を図る単元計画を立てる。
- ・児童の自己評価（振り返り）や指導に生かす評価を通して、教員の指導上の課題を見出し、指導改善が図れるようPDCAサイクルを確立する。

中学校 外国語

◇今年度の重点

- (1) ICTを効果的に活用した授業の実践
- (2) 言語活動の充実を目指した授業改善の推進
- (3) 指導計画の作成と指導改善のための指導・評価サイクルの確立

◇現状と課題

- ・学習指導要領の円滑な実施
- ・資質・能力を育成するための言語活動の充実
- ・小中連携の推進
- ・指導と評価の一体化
- ・学習到達目標（CAN-DO リスト）の設定と活用
- ・ICT等を活用した言語活動の工夫

(2) 言語活動の充実を目指した授業改善の推進

- ・外国語を使用して互いの気持ちを伝え合うなどのコミュニケーション活動を一層充実させる。
- ・コミュニケーションを行う目的や場面、状況等を明確にした言語活動を設定する。
- ・言語材料は場面設定や題材と関連付けをして指導したり、繰り返し活用させたりすることでその定着を図る。
- ・小学校外国語活動や外国語の学習内容や指導方法を把握することで、小学校からの学びを中学校段階へ接続させ、系統的な指導を行う。

(3) 指導計画の作成と指導改善のための指導・評価サイクルの確立

- ・指導計画の作成により、単元を通して育成すべき資質・能力を明らかにし、教員間で共有する。
- ・「英語を使って何ができるようになるか」という観点から3学年間の学習到達目標を明確に設定し、活用する。
- ・ICT等を活用した効果的な言語活動を工夫し、「聞くこと」、「話すこと」、「読むこと」、「書くこと」を通して学んだ簡単な語句や基本的な表現を繰り返し活用し定着を図る。
- ・3観点・5領域による評価の方法を正しく理解し、適切な評価を行えるようにする。
- ・評価規準に照らしてパフォーマンステスト等で適切に評価し、適宜フィードバックする。
- ・児童の自己評価（振り返り）や指導に生かす評価、埼玉県学力・学習状況調査の結果分析を通して、教員の指導上の課題を見出し、指導改善が図れるようPDCAサイクルを確立する。

小・中学校 特別の教科 道徳

◇今年度の重点

- (1) ICTを効果的に活用した授業の実践
- (2) 道徳科における学習指導の創意工夫
- (3) 児童生徒の成長を認め、励ます評価と、自らの指導に対する評価・改善

◇現状と課題

- ・道徳科の授業におけるICTの効果的な活用
- ・「考え、議論する道徳」の授業に向けた指導方法の工夫改善
- ・道徳科における指導と評価の一体化

(2) 道徳科における学習指導の創意工夫

- ・道徳的価値の理解を自分との関わりで深め、多面的・多角的に考えられるよう指導を工夫する。
- ・児童生徒の主体的な学びとするため、児童生徒自らが道徳的価値を実現するための課題や目標、及び道徳性を養うことのよさや意義について考えることができるよう指導を工夫する。
- ・指導のねらいや教材の特質、児童生徒の実態に応じて効果的な指導方法を取り入れる。
- ・教科用図書に加え、本県の特色を生かした「彩の国の道徳」などの地域教材を活用する。
- ・道徳科の授業を積極的に公開したり、保護者や地域の方の参加型授業を行ったりする。

(3) 児童生徒の成長を認め、励ます評価と、自らの指導に対する評価・改善

- ・児童生徒の評価は、道徳科の学習活動に着目して行い、児童生徒が自らの成長を実感し、意欲の向上につなげていくことができるようにする。
- ・児童生徒の評価は、一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展しているか、道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているかといった視点を重視する。
- ・教師自らの指導を評価し、指導の改善・充実に取り組む指導と評価の一体化を実現する。

小・中学校 総合的な学習の時間

◇今年度の重点

- (1) ICTを効果的に活用した授業の実践
- (2) 地域や学校、児童生徒の実態に応じた、創意工夫を生かした全体計画及び年間指導計画の作成・改善
- (3) 主体的・対話的で深い学びの実現を目指した指導と評価の工夫

◇現状と課題

- ・どのような資質・能力を育成するのかや、各教科等の関連を明らかにすることについては取組の差がある。
- ・探究のプロセスの中でも「整理・分析」「まとめ・表現」に対する取組の差がある。

(2) 地域や学校、児童生徒の実態等に応じた、創意工夫を生かした全体計画及び年間指導計画の作成・改善

・総合的な学習の時間の特徴に応じて、効果的な学習が展開できるように、各学校において定める目標、「目標を実現するにふさわしい探究課題」及び「探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力」で構成する内容について明記した全体計画や、1年間の流れの中で各教科等との関連を見通した年間指導計画（単元配列表）などを作成し、活用を図る。その際、学習活動、指導方法、指導体制、学習の評価等についても、その基本的な内容や方針等を概括的・構造的に示したり、必要に応じて他教科等における学習活動を書き入れ、総合的な学習の時間における学習活動との関連を示したりして作成する。

・年度当初に立てる計画は、学習活動の展開や児童・生徒の取組や願いを随時把握し、育てたい資質・能力と照らし合わせながら、必要に応じて適宜見直していくなど弾力的な運用に耐えうる柔軟なものにする。

(3) 主体的・対話的で深い学びの実現を目指した指導と評価の工夫

・学習過程を探究的にするために、「課題の設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」という探究のプロセスを何度も繰り返したり、他者と協働して主体的に取り組む学習活動にしたりして、学習の質を高める。

・教科等の枠を超えて探究する価値のある課題について、各教科等で身に付けた資質・能力を活用・発揮しながら取り組むようにする。その際、整理・分析場面で「考えるための技法」を用いた思考を可視化する思考ツールを活用したり、まとめ・表現場面で相手意識や目的識を明確にした学習活動を行ったりする。

・評価を行うに当たっては、評価の解釈や方法を統一したり、評価規準や評価資料を検討して妥当性を高めたりして、児童・生徒の学習状況を的確に捉える。

小・中学校 特別活動

◇今年度の重点

- (1) ICTを効果的に活用した授業の実践
- (2) 特質の違いを踏まえた学級活動の指導の充実
- (3) 児童会活動（生徒会活動）、クラブ活動、学校行事それぞれの特質を踏まえた指導の展開

◇現状と課題

- ・特別活動の授業におけるICTの効果的な活用
- ・話し合い活動の充実
- ・各活動、学校行事それぞれの特質を踏まえた指導の展開

(2) 特質の違いを踏まえた学級活動の指導の充実

・学級や学校での生活をよりよくするための課題を見だし、解決するために話し合い、合意形成し、役割を分担して協力するといった児童生徒の自発的、自治的な活動が一層充実するよう指導する。

・学級活動(2)(3)においては年間計画に基づき、学級での話し合いを生かして、一人一人が意思決定し、実践できるよう適切な題材設定、指導方法を工夫する。

(3) 児童会活動（生徒会活動）、クラブ活動、学校行事それぞれの特質を踏まえた指導の展開

・学級活動、児童会活動（中学校は生徒会活動）、及びクラブ活動（小学校）の指導については、指導内容の特質に応じて、教師の適切な指導の下に、児童生徒の自発的、自治的な活動が効果的に展開されるようにする。

・学校行事については、内容の精選、見直しを図るとともにねらいを明確にし、各教科等との関連を図りながら内容の充実を努める。入学式や卒業式などにおいては、その意義を踏まえ、国旗を掲揚するとともに、国歌を斉唱するよう指導するものとする。また入学式や卒業式などにおける国旗及び国歌の指導に当たっては、社会科や音楽科における指導などとの関連を図り、国旗及び国歌に対する正しい認識をもたせ、それらを尊重する態度を育てる。